

大切な事

中央幼児センター父母会 会長 國本 稔

私は、共和町に生まれ、生まれ育つたこの地で農業をしています。

3人の子どもたちは中央幼児センターに通わせて頂き、父母と先生の会会長に就任してもうすぐ1年が経とうとしています。時が過ぎるのは本当に早く、子どもの成長と共に自分も成長しているのかどうか…。心配になる事も多々ありますが、多くの方々の助けや支えがあり、この1年間何とか務める事ができました。中央幼児センターには数々の行事があります。娘が2歳児で入園してから、4回の運動会と発表会を見る事ができました。運動会については全て良い天候に恵まれ、豊かな自然の中、子どもたちが可愛らしく走る姿や一生懸命に踊る姿を見て、のびのびと成長しているのだなと感じる事ができます。また、発表会では1年前に比べ大きく成長し、表現力豊かになった子どもたちに、ただただ感動させられます。小さな子どもたちに劇や遊戯を教えるという事は容易ではないと思います。先生と子どもたちが毎日しっかりとコミュニケーション



中央幼児センター生活発表会の様子

ケーションが出来ていて、素晴らしい信頼関係で結ばれているのだなと感じています。

私が日々、子どもたちと接する中で色々な思いがありますが、その中一つに人間関係、コミュニケーションのあり方というのがあります。

数年前に私が参加した講習会の中で、講師の方がこのような事をおっしゃっていました。『コミュニケーションの質が人生の質を左右する』。もちろん、これが全てではないと思いますが、非常に感銘を受け、今でも心に残っています。

子どもたちが、今日先生に教えて貰った事や、〇〇ちゃんと絵を描いて遊んだ、手紙を貰った、ケンカをした

けど仲直りしたことなどを話してくれます。

『ありがとう』と『ごめんね』、『いただきます』と『ごちそうさま』などの礼儀に至るまで、日々の先生や友達との人間関係の中で、自然に学んでいるのだと思いました。幼い頃から沢山の人と関わりながら生活するのはとても大切な事だと痛感し、幼児期に集団生活の要となる中央幼児センターに通えている事を日々感謝しています

「考える力」

共和高等学校 教諭 榎田 啓太

「想像力は知識よりも重要である」かの有名な科学者アルベルト・アインシュタインの名言の一つです。「知識には限界がある、想像力(＝考える力)が世界の発展と進歩を包み込んでくれる」。また、アインシュタインはこうも語っています。「学校で学んだことを一切忘れてしまった時になお残っているもの、それこそ教育だ」。私は、これらの言葉に深く同意します。そして、小中高の教育が、自らの人格の大部分を形成したと感じています。

知識は、時間と共に忘却されていきますが、体験や経験は、感覚として体に染みついていきます。現高校生が将来、社会や職業の在り方そのものも加速度的に変化していく様な社会を生きて抜き、人生を拓いていくためには、知識もさることながら、考える力(思

す。

これから成長し、やがて社会人になった時、礼儀をわきまえ、お礼や謝罪が素直にできること、そしてより良い人間関係を築き、コミュニケーション力豊かな「人」になって欲しいと願っています。最後に、私が会長職を務めるにあたり、沢山の方々に支えられ、助けて頂きました。心より感謝致します。本当にありがとうございます。

考力)が重要であると強く感じています。これからの教育現場でも、教育内容が見直され、未知の状況にも対応できる思考力・判断力と、他者と協働しながら未来を拓いていく表現力等の育成が目指されていくところです。

私は、昨年4月に旭川の高校から、共和高校に転勤して参りました。本校の大部分の生徒は、就職し社会に出ていきます。3年間の高校生活の中で、彼らのために何ができるか、どのよう



雪かきボランティアを実施している共和高校生の様子

にして考える力を身に付けて、社会に送り出すのか、日々思慮し、教科指導（理科）と生活指導で実践しているところ。教育は、人を変え、人生を豊かにするものだと思っています。

「教師として」

東陽小学校 教頭 加藤 数馬

教員になって間もない頃、先輩から「給料の3割は本を買いなさい」と言われました。ここでいう本というのは、授業技術や児童生徒理解に関することなど、教師として必要な専門性を高めるための本のことです。余談ですが、私の教員生活の振り出しは宗谷管内稚内市で、書店はあるものの教育関連の品揃えは少なく、たまの土日には同僚や先輩と旭川や札幌へ行き、大量の重たい本を買い込んで帰ってきた思い出があります。その頃買った本は今も捨てず、書棚に挟まっており、今でも役に立つことがあります。

教員は専門職であり、資格を持っていないければ就くことができません。今では教員免許状の更新があり、決められた時期に必要な講習を受けないと免許状は無効になります。

免許があれば教員として仕事をしていくことはできます。しかし教員は絶えず「研究と修養」に励み、自分の指導力を高める努力をしていかなければならない職業です。努力して経験を積み重ね、専門職として「教員」か

今の共和高校は、13名の教員が26名の生徒に、体験や経験を通して多様な力を身に付けさせるために、個人そしてチームで汗を流している、そんな学校です。

「教師」へと成長していきます。

さて、小学校では英語教育がよいよいよ始まり、道徳の時間は「特別の教科道徳」となり、平成30年度から完全実施です。また、現在は「〇〇教育」「〇〇力の向上」など、学校で取り扱う内容は細分化され、多種多様に広がっています。教員に求められる専門性も同様です。

学校は「教師」がいてこそ成り立ちます。「教育は人なり」です。教育的な熱情と真剣さ、授業の専門性や技能、そして一人の大人として、あたかく広い心で子どもと向き合える人間性が必要です。東陽小学校では「教職員が誇りをもてる学校」を「目指す学校像」に掲げています。全教職員が「教師」として子どもと真剣に向き合



英語の授業を受ける東陽小学校の児童の様子

未来を生きる子どもたちを育てる

共和中学校 校長 田中 仁史

い、子どもも教師も成長し続ける学校であるよう、「教頭」として「教師」と思っています。

として、今後も職務に励んでいきたいと思っています。

積丹半島の港町、美国中学校から共和中学校に赴任して10ヶ月が過ぎました。生徒数も前任校の3倍以上で、着任してしばらくは生徒の顔と名前を覚えるのに苦労しました。そこで解決方法の一つとして、毎朝玄関で生徒の顔を見よう、それから挨拶がうまくできない子どもが多いので、「おはよう」の声かけもしようと思いい立ち、出来る限り玄関で登校する生徒を迎えています。

究によると、今から10〜20年後には技術革新により約半数の人の仕事がなくなると思われています。

元気に挨拶を返してくれる生徒もいれば、はにかんだり、気づかない振りをして通り過ぎていく生徒もいます。元気がない様子なので聞いてみると体調が悪かったり、忘れ物をしてしまったたり。部活の大会で勝った翌日はテンションが高かったり、毎日見ていると名前や顔以上にいろいろなおことが見えてきます。そんな子どもたち一人一人の表情や様子を見取りながら、子どもたちのための学校運営を進めていきたいと思っています。

さて、国勢調査に基づく日本の人口推移予想では、15年後には65歳以上の高齢者が人口の3分の1となり、35年後には総人口が1億人を割るそうです。また、オックスフォード大学の研

そんな私たち大人が経験しなかった社会を生きていく子どもたちに対して、教師も保護者も日本の未来を見据えて考えてあげなければなりません。中学校卒業時には高校受験という将来の進路を方向付ける第一関門を経験します。子どもたちが未来をしっかりと生きていけるよう、保護者の皆様からの連携や協力をいただきながら、大切なお子さんを3年間育んでまいります。至らない場面もあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



共和中学校体育大会の様子